

平成 28 年度 東三河地域産業労働会議における主な発言要旨

日時：平成 28 年 8 月 26 日（金）午後 2 時から午後 4 時まで

場所：愛知県東三河総合庁舎 3 階 302 会議室

（若者の離職の現状）

- ・若年者の離職理由の傾向としては、一般的な傾向と一緒に、給与面で賃金が安い、将来に不安がある、職場での人間関係の問題等が多い。
- ・若年者の離職については労働時間、休日、人間関係でうまくいかないということでやめていく理由が多い。
- ・安定所に来る求職者の状況を 27 年度で態様別に見た場合に、豊橋では全体求職者のうち 5 歳単位の層で分けた場合、25 歳から 29 歳のところで 14.9% ともっとも高い層になっている。そのうち 55% の方が離職者である。また年齢を増すごとに離職者の占める割合が高くなっている。
- ・今ある求人の募集内容で、高校生の希望する職種が満たされているかという点、ちょっと危惧するところがある。実際には、事務職を希望されている女性が多くても求人がない中、なかなか希望する職種についていないということもあって、辞められるというケースが起きていることがあるかと思う。

（企業の離職防止対策）

- ・小規模零細企業については、就業規則がしっかりしていない、有給休暇の規定、残業手当の問題、また教育プログラムができていないなど、改善の余地がある。働きやすい環境、将来に希望のある企業になる努力が必要ではないか。
- ・中小はなかなか離職防止策を充実することが難しい。たとえば退職金の積み立ての充実を図るとか、中には親睦旅行でコミュニケーションを図っていくなど、大企業とは違った切り口でやってみないとなかなか維持できない。全般的にはなかなかそこまで手が回らずに、しっかりした防止策までできていないというのが現状である。
- ・多様な働き方があるので、非正規として働きたいという人はいいが、非正規を望まないのに非正規でしか働けないという場合があるので、それぞれの組合を通じて非正規の人が正社員化になるような運動も今取り組みをさせていただいている。
- ・平成 27 年 10 月に若年者雇用促進法が制定されて、学卒求人を申し込む場合に青少年の雇用情報シートという、雇用情報にかかわる情報を企業から出していただくことになっている。これは、月平均の所定労働時間外労働時間、有給の取得率だとか育児休暇の取得率、そういった企業情報をシートにして求人票に添付するというものである。

（企業の新卒採用の活動状況）

- ・東三河の商工会議所および商工会共同で東三河の学生の就職をサポートする合同企業説明会を、年 4 回から 5 回実施。本年は、参加企業は増加しているが来場の学生数が減少しているという傾向。景気がよくなり大企業の採用が積極的になったが中小企業の採用は非常に厳しい。
- ・本人だけではなく親御さんの意見を聞いたり、新卒で入って途中でやめてまた就職する場合は、

基本的にはいい条件のところへ行くので、中小企業はなかなか普通の条件ではとりづらいという現状がある。

- ・製造業へのインターンシップ生は、そのままその企業に就職することはあまりないように思う。
- ・インターンシップに生徒を出す学校側と受ける側の企業の立場は異なっている。「教育」と「就職」という考え方の違いがあるので頭を悩ませている。

(若年者雇用対策)

- ・機械金属工業部会という製造業の人たちが集まっている部会が、高校の先生たちの企業さんへの現地見学、さらに交流会、意見交換会を実施している。特に熱心なのが特別支援学級を持ってみえる学校の先生方で、少しでも何とか自分たちの生徒に働いてもらうために適した企業を見つけようと熱心にやられている。そういう学生さんを雇った企業の評価は高く、知ってもらうことが大事である。
- ・地元の技術系の大学と連携して、地元の大学の学生さんに地元の企業に就職していただくため、講演会を実施してきたが、昨年からはちょっと方向を変えて、金属鉄鋼部会長、製造業の部会長が出向いて、地元企業の話をするということをしている。地元の企業の中でも、ニッチの中でいけばかなりシェアが高いという企業があることも理解していただきたいと思っている。
- ・今後、若い方々が地元の企業を見てここに就職して働きたいと思ってもらうためには、東三河の企業を中心であるものづくりを、現場中心のなかで知ってもらうということが大事だと思う。
- ・昨年度策定した第2次産業政策プランでは、人材育成確保ということを柱の一つに位置づけて、女性、若者、まだまだ元気で知識経験をもっている高齢者の確保、UIJターン促進等による地元への人材の確保ということを進めていくこととしている。
- ・市主催で合同企業説明会を行っている。就職を希望する高校3年生を対象にして、12月から1月にかけて説明会、面接会を行っている。採用計画に満たない企業だとか、就職を希望したがまだ内定を得られていない人たちのマッチングの場と位置づけている。
- ・高校生を対象とした企業見学バスツアーを行っており、高校1年生、2年生、希望があればその保護者を対象に仕事に対する理解を深めていただき、将来、市内の企業に就職していただくことを目的に、毎年3月ごろに実施している。具体的にはバスを借り上げて、昨年は市内の中小企業を3日間かけて6社を見学した。仕事内容、その会社の人材育成方針、魅力等を知っていただく機会としている。
- ・今の文科系の学生はあまり製造業に目を向けない。将来、事務系の仕事をするにしても現場のことを知らないといけない。現場でも文科系出身者の力を活かせる生産管理など事務的な仕事もたくさんある。学生はもっと製造現場に目を向けた方が良いのではないかな。
- ・労働基準法関係の知識について、基本的にまだ若い人達に認知されていない。就職した若い人たちに負担がかかり、疲弊していくと何の意味もない。

(全体)

- ・産業労働ビジョンは、愛知県全体のビジョンであるので、有効求人倍率は県全体平均の1.51を前提としている。しかし、地域によっては1を割っている所もある。地域の特性をいかしてビジョンをカスタマイズ化していく必要があるのではないかな。